



兼松株式会社

KG REPORT 2010

冬号

第117期 中間

株主通信



2010年4月1日から2010年9月30日まで

2011年3月期 第2四半期(中間期)連結業績

▶ 前年同期比で増収増益を達成

- ▶ 電子・IT関連の需要回復により売上高が増加
- ▶ 売上高増加に加え、販管費の削減などが寄与し、大幅に利益改善

| | |
|--------|----------------|
| 売上高 | 4,546億円(+8.0%) |
| 営業利益 | 92億円(+44.0%) |
| 経常利益 | 76億円(+65.6%) |
| 四半期純利益 | 40億円(+131.3%) |

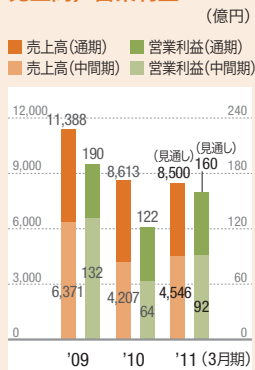
目次

| | |
|-----------|----|
| 業績ハイライト | 01 |
| 株主の皆さまへ | 02 |
| 事業別概況 | 04 |
| 主要連結財務データ | 09 |
| トピックス | 10 |
| 会社情報 | 12 |
| 株式データ | 13 |

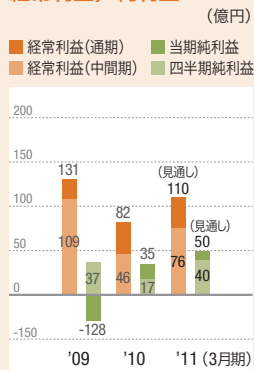
* 2010年4月1日付で、事業部門の名称変更を行いました。また、会計基準の変更に伴い、事業区分の見直しも行っております。事業別概況ページでは新名称および新区分での記載となっています。

当第2四半期(中間期)は、国内外における電子部品や半導体需要の回復により、売上高は前年同期比339億円増加の4,546億円となりました。営業利益は、売上総利益の増加や販売費及び一般管理費の削減にともない、28億円増加の92億円となり、経常利益は31億円増加の76億円となりました。特別損益は、投資有価証券評価損や資産除去債務会計基準適用などにより7億円の損失となりましたが、四半期純利益は23億円増加の40億円と大幅増益を達成しました。

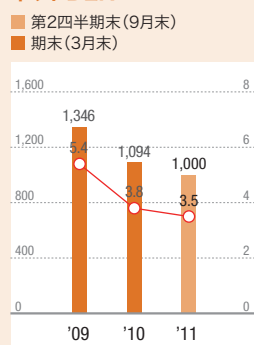
売上高/営業利益



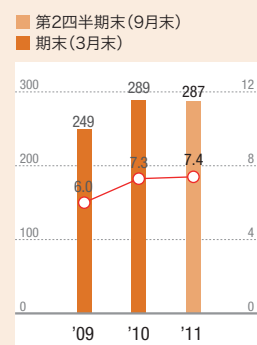
経常利益/純利益



ネット有利子負債/ネットDER



自己資本/自己資本比率



(注) ネット有利子負債=有利子負債-現金及び預金
ネットDER=ネット有利子負債/(純資産-少数株主持分)

自己資本=純資産-少数株主持分
自己資本比率=(純資産-少数株主持分)/総資産

景気先行きなど不確実な状況が継続する中、 着実な収益力向上を目指して参ります。

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期(2010年4月1日～9月30日)の世界経済は、中国をはじめとするアジア・新興国経済の牽引により緩やかな回復傾向となりました。一方わが国経済においては、引き続き厳しい雇用情勢、円高進行、さらにはデフレの継続などにより、改善傾向にあった企業業績に一部減速感が見られました。

このような環境のもと、当社では4月から開始した3カ年の中期経営計画“S-Project”の達成に向け、引き続きコスト削減を図る一方、お客さまと共に新規事業を創出する「事業創造集団」として、得意とする商品やサービスの提供を通じた付加価値創造を実践いたしました。その結果、電子・IT部門における半導体製造装置などの出荷拡大、機械・プラント



02

部門の黒字転換、およびそれらの連結子会社業績の堅調な推移を主要因として、前年同期比で増収増益となりました。また金融収支や持分法投資損益の改善などもあり、収益全般において期初公表見通しに対して順調な進捗となりました。

通期の連結業績見通しについては、第2四半期までの良好な進捗状況を踏まえる一方、円高、新興諸国の政治リスク、さらに景気刺激策の縮小などに伴う先進国景気の先行きなど、第3四半期以降、不確実な状況が継続することも想定し、営業利益は期初公表見通しの150億円から160億円に、経常利益は100億円から110億円に、当期純利益は45億円から50億円にそれぞれ上方修正いたしました。売上高については、期初公表見通しの8,500億円を据え置きとしております。まずはこの目標を確実に達成し資本の充実を図り、早期復配を実現するべく、事業運営にあたって参る所存です。

株主の皆さまには、引き続き温かいご支援を賜りますよう、よろしく
お願い申し上げます。

代表取締役会長

浜川 雅春

代表取締役社長

下嶋 政幸

03



電子・IT

Electronics & IT

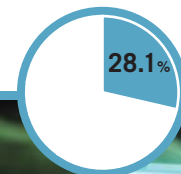
主要事業

- 半導体部品・装置
- 機構部品
- ICT・モバイル
- 航空宇宙

主要グループ会社

- 兼松エレクトロニクス
- 兼松コミュニケーションズ
- 日本オフィス・システム
- 兼松エアロスペース

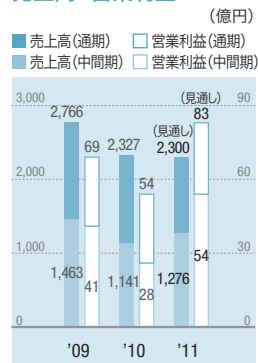
売上構成比



事業レビュー

電子関連の素材や部品・装置から、航空機まで幅広い製品を取り扱っており、モバイル事業やICTソリューション事業も展開しています。OEM、ODM事業にも注力し、更なる付加価値を提供しています。当第2四半期は、半導体需要の回復を背景に半導体製造装置事業が改善するとともに、機構部品事業やモバイル事業も順調に推移。ICTソリューション事業も、着実に利益を確保しました。その結果、電子・IT部門の売上高は前年同期比135億円増加の1,276億円、営業利益は26億円増加の54億円となりました。

売上高・営業利益



食品・食糧

Foods & Foodstuff

主要事業

- 食品
- 畜水産
- 穀物油脂・飼料酪農

主要グループ会社

- 兼松食品
- 兼松アグリテック
- 兼松ソイテック

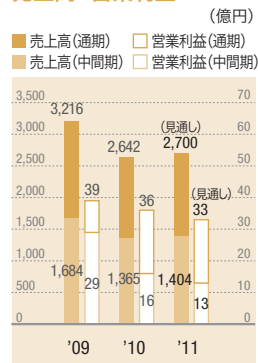
売上構成比



事業レビュー

「食の安全・安心」をテーマに、原料の調達から製品加工までの一貫供給体制により、飼料や穀物、畜水産物などの食料をはじめ、高付加価値商品を含めた幅広い食品の提供を行っています。当第2四半期は、需給環境が安定していた食品事業は好調に推移し、畜水産事業も安定収益を確保しました。食糧事業は、海外穀物市況が高騰する一方、日本国内での猛暑や口蹄疫の影響など厳しい外部環境により、苦戦しました。その結果、食品・食糧部門の売上高は前年同期比39億円増加の1,404億円、営業利益は3億円減少の13億円となりました。

売上高・営業利益





鉄鋼

Iron & Steel

主要事業

- 鉄鋼貿易
- 特殊鋼貿易
- 鑄鍛造品
- 国内鉄鋼・鉄鋼原料

主要グループ会社

- Steel Service Oilfield Tubular
- 兼松トレーディング

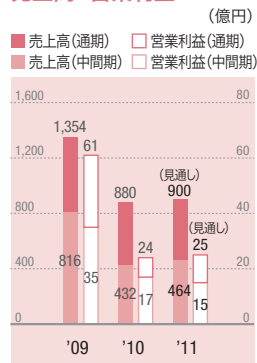
売上構成比

10.2%

事業レビュー

鉄鋼部門では、高い専門知識を活かし、ユーザーとともに付加価値の高い商品を開発。鋼板、ステンレスなどの特殊鋼、自動車向け線材など各種鉄鋼製品の国内取引を行うとともに、欧米・アジア・中東との貿易取引を行っています。当第2四半期は、欧米向け自動車用線材および米国・アジア向け特殊鋼・ステンレスの輸出が好調に推移しましたが、中東向け鋼板の輸出は韓国・欧州との競合激化により苦戦しました。その結果、鉄鋼部門の売上高は前年同期比32億円増加の464億円、営業利益は2億円減少の15億円となりました。

売上高・営業利益



機械・プラント

Machinery & Plant

主要事業

- 輸送機
- プラント・インフラプロジェクト
- 工作機械・産業機械

主要グループ会社

- 兼松ケージケイ

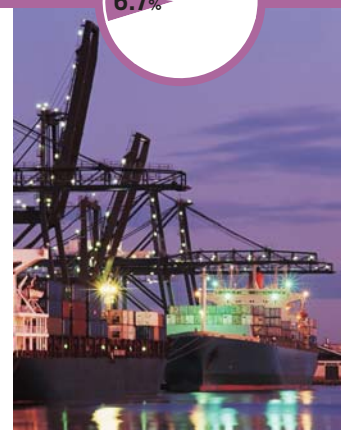
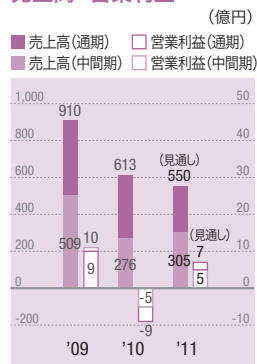
売上構成比

6.7%

事業レビュー

機械・プラント部門では、各国のインフラ整備をはじめ、化学・製紙プラントやODAプロジェクトなど地域の発展に貢献するプロジェクト組成型ビジネスを展開。船舶、二輪・四輪関連取引なども行っています。当第2四半期は、中国向けを中心とした自動車関連部品取引、中東向けプラント関連取引が堅調に推移。また、工作機械事業は、コスト削減に取り組む一方で、受注環境も穏やかながら回復しました。その結果、機械・プラント部門の売上高は前年同期比29億円増加の305億円、営業利益は10億円増加し、5億円の黒字転換となりました。

売上高・営業利益





環境・素材

Environment & Materials

主要事業

- 原油・石油製品・ガス
- 機能性化学品
- ライフサイエンス

主要グループ会社

- 兼松ペトロ
- 兼松ケミカル
- 兼松ウェルネス

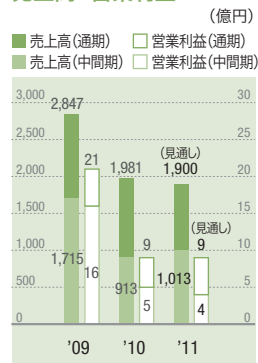
売上構成比

22.3%

事業レビュー

「環境・健康・医療」をキーワードに、商品開発や生産機能を強化。原油の輸入、石油製品の輸出入・国内取引のほか、新規エネルギー事業にも取り組んでいます。当第2四半期は、車載用電池原料の輸出や潤滑油取引など化学品が好調だった機能性化学品事業と、免疫ミルク販売の好調や医薬品輸出が回復したライフサイエンス事業は、堅調に推移。エネルギー事業は、国内需要の低迷などにより苦戦しました。その結果、環境・素材部門の売上高は前年同期比101億円増加の1,013億円、営業利益は1億円減少の4億円となりました。

売上高・営業利益



08

| | (百万円) | |
|----------------------|------------------------------|------------------------------|
| | 前第2四半期 2009.4.1~2009.9.30 | 当第2四半期 2010.4.1~2010.9.30 |
| 売上高 | 420,692 | 454,551 |
| 営業利益 | 6,407 | 9,223 |
| 経常利益 | 4,581 | 7,587 |
| 四半期純利益 | 1,746 | 4,039 |
| 1株当たり(円) 四半期純利益 | 4.18 | 9.66 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 15,746 | 10,442 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △15,557 | 7,103 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | △6,091 | △16,401 |
| 現金及び現金同等物の 四半期末残高 | 72,903 | 64,434 |

| | (百万円) | |
|-------------|------------------|----------------------|
| | 前期末 2010.3.31 | 当第2四半期末 2010.9.30 |
| 総資産 | 398,629 | 388,786 |
| 純資産 | 45,804 | 45,591 |
| 1株当たり純資産(円) | 69.15 | 68.72 |
| ネット有利子負債 | 109,350 | 99,954 |
| 自己資本比率(%) | 7.3 | 7.4 |
| ネットDER(倍) | 3.8 | 3.5 |

<ご参考>

2011年3月期連結業績予想 (2010年11月5日修正) (百万円)

| | | | |
|------|---------|----------|-------|
| 売上高 | 850,000 | 当期純利益 | 5,000 |
| 営業利益 | 16,000 | 1株当たり | |
| 経常利益 | 11,000 | 当期純利益(円) | 11.95 |

詳細の財務データはこちらを参照ください。 <http://www.kanematsu.co.jp/tabid/58/Default.aspx>

09

サステイナブル・コーヒーをご存じですか？

おいしさだけじゃない、環境にもやさしい
次世代のこだわりコーヒーです。

サステイナブル(sustainable=持続可能な)・コーヒーとは、地球レベルで未来のことを考え、自然環境保護や人々の生活向上を目指して生産され、流通するコーヒーの総称です。これらは、有機無農薬の「オーガニック」、公正価格による貿易「フェアトレード」、環境保護を理念とする「シェードツリー」の3つのカテゴリーに分類されます。当社ではいち早くこの分野に着目し、熱帯雨林保護に取り組む国際的な環境保護団体、レインフォレスト・アライアンスの認証を受けたコーヒー豆の輸入・販売を通じて、生産者の支援や環境保護に努めています。

レインフォレスト・アライアンス認証マーク

認証には、自然環境保護や農業従事者の生活向上など数多くの厳しい審査基準がある。認証マークのシンボルには、環境悪化に敏感で環境保護のバロメーターとされるカエルが用いられている。



10

1 生態系の多様性保護

熱帯雨林は多様な生物の宝庫です。レインフォレスト・アライアンスは農園とその周辺の生態系に厳しい保護基準を設け、野生生物と農業の共生を目指しています。生態系の多様性保護は地球の未来にかかわる重要課題として注目され、今年には生物多様性条約締約国会議「COP10」も開催されました。



COP10とは

COP(Conference of the Parties)とは、国際条約を結んだ国が集まる締約国会議のこと。2010年10月、多様な生き物や生息環境を守り、その恵みを将来にわたって利用するために結ばれた生物多様性条約の10回目の締約国会議「COP10」が、愛知県名古屋で開催されました。



いのちの共生を、未来へ
COP10/MOP5
愛知-名古屋 2010

2 森林伐採の禁止

森林伐採の禁止は、熱帯雨林保護に不可欠な取り組みです。レインフォレスト・アライアンスでは、天然林の薪や木材への利用や焼畑の禁止などを規定し、熱帯雨林や野生生物生息地を保護しています。また、土壌や水資源を保全するため、土地利用や排水にも管理基準を設けています。



認証を
取得するには？

3 農業従事者の生活向上

レインフォレスト・アライアンスは、農業従事者の生活や労働環境向上を目的に、広範囲な規定を定めています。認証を受けるには、最低賃金の保証、安全で清潔な労働環境・飲用水・住居の供給、労働者やその家族に対する医療機関や無料教育機関の提供などが義務付けられています。



11

会社概要 (2010年9月30日現在)

| | |
|------|-----------------------|
| 社名 | 兼松株式会社 |
| 英文社名 | KANEMATSU CORPORATION |
| 創業 | 明治22年(1889年)8月15日 |
| 設立 | 大正7年(1918年)3月18日 |
| 本店 | 神戸市中央区伊藤町119番地 |
| 本社 | 東京都港区芝浦1丁目2番1号 |
| 資本金 | 27,781,141,350円 |
| 従業員数 | 846名(国内・海外外向者などを含む) |

役員 (2010年9月30日現在)

| | |
|---------|-------|
| 代表取締役会長 | 浜川雅春 |
| 代表取締役社長 | 下嶋政幸 |
| 代表取締役専務 | 重元和夫 |
| 代表取締役専務 | 榎沢利博 |
| 常務取締役 | 佐藤仁美 |
| 常務取締役 | 鈴木達夫 |
| 取締役 | 梨本文彦 |
| 取締役 | 村尾哲朗 |
| 取締役 | 田村裕一 |
| 取締役 | 郡司高志 |
| 監査役(常勤) | 新納善郎 |
| 監査役(常勤) | 入江健二 |
| 監査役 | 山田洋之助 |
| 監査役 | 天草晴吉 |

(注) 監査役のうち、新納善郎、山田洋之助、天草晴吉の3氏は社外監査役であります。

天草晴吉氏は、証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

株式の状況 (2010年9月30日現在)

| | |
|-----------------------------|--------------|
| 発行済株式の総数(自己株式1,328,409株を含む) | 422,501,010株 |
| 株主数 | 39,498名 |

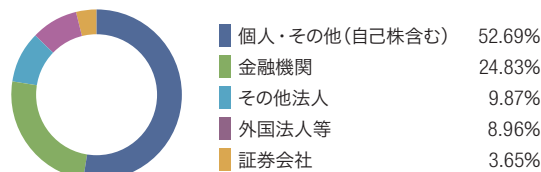
大株主 (2010年9月30日現在)

| 株主名 | 株式数 (千株) | 持株比率 (%) |
|---------------------------------|-------------|-------------|
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 13,298 | 3.15 |
| 農林中央金庫 | 12,460 | 2.95 |
| 東京海上日動火災保険株式会社 | 11,612 | 2.75 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 8,440 | 2.00 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 7,213 | 1.71 |
| 兼松日産農林株式会社 | 6,239 | 1.48 |
| 小手川 隆 | 5,150 | 1.22 |
| 大王製紙株式会社 | 4,510 | 1.07 |
| ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505223 | 4,200 | 0.99 |
| 三井住友海上火災保険株式会社 | 3,713 | 0.88 |

(注) 持株比率は自己株式(1,328,409株)を控除して計算しております。

株式の分布状況 (2010年9月30日現在)

所有者別



所有株数別



| | |
|---------|--|
| 事業年度 | 4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 6月 |
| 株主名簿管理人 | 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 |
| 郵便物送付先 | 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (電話照会先) | 電話0120-78-2031(フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに 日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。 |
| 公告方法 | 電子公告 ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることが できない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載 いたします。 公告掲載のホームページアドレス http://www.kanematsu.co.jp |
| 単元株式数 | 1,000株 |
| 上場証券取引所 | 東京(証券コード:8020) |

【住所変更等諸手続のお申し出先について】

最近、株主さま宛の郵送物が宛先不明で返送されてくるケースが増えております。現在お届けいただいておりますご氏名(法人の場合は商号および代表者名)・ご住所等に変更がありましたら、お手数ですが**株主さまの口座のある証券会社等**にお申し出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

**中央三井信託銀行への手続用紙
(住所変更・買取請求・配当金振込指定等)のご請求**

フリーダイヤル

0120-87-2031(24時間受付:自動音声)

ホームページ

http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

